

校長室だより

令和8年 9月18日(金)
第 21 号
十日町市立中条中学校校長室

令和8年度体育祭の応援ありがとうございました。

2学期が始まってからずっと天気予報とにらめっこをしながら、もう祈るしかないという気持ちでした。9月10日(木)前日も雨でしたが、その日だけ朝から晴れ上がり、くもりで時折日差しがさす絶好のコンディションの中で、体育祭を行うことができました。平日の開催にも関わらず、朝から多くの皆さまにご参観いただき、素晴らしい体育祭となりました。

体育祭での当校のねらいや学習指導要領と関連付けて、当校の体育祭を振り返ってみたいと思います。



【体育祭のスローガン】

当校は体育祭のねらいを以下のように設定しています。

1 ねらい

- (1) 生徒実行委員会や応援、パネルリーダーを中心に、生徒たちが主体となって体育祭を作り上げ、達成感や連帯感を醸成する。
- (2) リーダーだけではなく、フォロワーとして体育祭を支え盛り上げる活動に意欲的に参加し、生徒一人一人が主役となれる体育祭にする。
- (3) 学校と保護者、地域の交流の場となるように、一緒に活動して中条中生の頑張りを伝える。

2 自己有用感を育む観点から

<居場所づくり>

- (1) 3年生を中心として、生徒が主体的に活動できる組織体制にする。
- (2) 運動が得意な生徒も苦手な生徒も、自分ができることでチームや全体に貢献し、所属意識をもてるよう職員の声掛けや全体での配慮を行う。

<絆づくり>

- (1) 競技や応援の練習では、チームリーダーが主体的に動く。
- (2) 個々の運動能力を大事にしながら、チームに貢献する意識をもつ。
- (3) リーダー、フォロワー共に、自分の役割を自覚し、集団の一員であるという意識をもって行動する。



前号でお知らせした「社会性の育成」の観点から言えば、ねらいには大切な要素がたくさん含まれています。「生徒が主体的に」「一人一人が主役」は自己肯定感や自己有用感の育成、「リーダーとフォロワー」「チームや全体に貢献」は人間関係づくりや他者と協力しながら問題解決を図る力。また、集団に寄与することは、各自の幸せにつながることです。

「リーダーシップとフォロワーシップ」という概念を大切にしています。リーダーシップとは、「ビジョンや方向性の共有、目標の明確化などによって組織を導いていく」、フォロワーシップは「リーダーが示したビジョンに共感し、積極的にサポートすることで目標達成に貢献していく」ことです。組織を動かすには、それぞれの立場で持てる力を発揮することが大切です。



準備期間で応援については、両チームとも組織的に進め、仕上がりも早かったと感じています。チームやリーダーの中では紆余曲折やぶつかり合いもあったようですが、それを感じさせない内容であったように思います。その過程を踏んだからこそ、見ている人に感動を与える応援の姿だったと言えると思います。

当校は、「限られた時間の中でどうマネジメントしていくか」が暗黙の了解のようになっています。以前の体育祭を振り返ると、直前になって「応援合戦ができていない、時間がほしい」とリーダーが訴えることがありましたが、そういったことは一切ありませんでした。時間を管理して、同じ目標に向かうために組織を導くマネジメント力はこれからの生活の中で、求められる力の一つです。

体育祭は、学習指導要領では、「特別活動の学校行事」に位置付けられています。特別活動の目標です。



集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

体育祭の振り返りの場面や記述の多くは「楽しかった」でした。3年生にとっては中学校最後の体育祭、勝負なので当然結果が出ますが、「負けても充実した体育祭」「最高の思い出」「同じチームでとてもよかった」などのコメントが多数ありました。この振り返りからも、一人一人の自己肯定感、自己有用感は上がったのではないかと思います。

自己肯定感、自己有用感の観点から考えれば、体育祭の様々な場面で、学年やチームの枠を超えて、お互いに声を掛け合い、励まし合い、共に高め合おうとするシーンを多く見ました。初めての体育祭であった1年生の振り返りでも「先輩からの温かい声掛けやアドバイスがうれしかった」「みんなで目標に向かって協力することができてとてもよかった」などが見られました。そして、次につながるような課題を見付けている生徒もたくさんいました。

今年度3回目の開催となった「地域交流種目」の玉入れには平日にも関わらず、多くの皆さまから参加いただきました。玉入れの前の十日町小唄の踊りは、陸上トラックを埋め尽くすほどでした。学校運営協議会の中で委員の皆さまと生徒会総務が熟議、PTAの三役からは何度も学校に足を運んでいただき、生徒会との打ち合わせと準備を進めていただきました。地域の皆さまと触れ合うまたとない機会となりました。



開閉会式で実行委員長や副委員長が述べた感謝の気持ちはとても素晴らしいものでした。「保護者、地域、先生方など多くの皆さまに支えられている。」この思いを是非これからも大切にしてほしいと思います。大前提となるのは生徒同士のお互いのリスペクトです。それがしっかりしているからこそ、支えていただいている皆さまに感謝することができるのだと思います。常に「感謝」。この気持ちはこれからも、いつまでも持ち続ける生徒であってほしいと願っています。

2学期の一大行事である体育祭は成功裏に終わりました。この成果をこれからの学校生活にどう生かすかが、とても大切です。これまで以上の中条中学校になるよう、生徒、教職員ともの日々の活動を充実させていきます。